


【別紙3】専門演習概要記入様式

クラス		担当教員	新城 優子
	テーマ	社会学的に考える	
	著書・論文	研究課題：社会階層と家族・教育・子育て 教育格差のない社会の構築	
	研究課題等	労働と家族	

ゼミナール概要

キーワード： 社会学的想像力、リサーチ・リテラシー

【目的】

私たち人間は、自分の意志のもと様々なことを決断し、実行し、毎日生活しているわけですが、その決断や実行には、自分の意識しないところで＜社会＞の影響を受けています。たとえば、どんなに寒い日でも4月になってしまえばダウンコートを着るのはためらわれるでしょう。たとえばきょうだいのいる方は、「おにいちゃんだから」「おねえちゃんだから」「弟だから」「妹だから」と言われたことがあるでしょう。でもそれがなぜなのか、考えたことがありますか。4月にダウンコートを着るのをためらうのは、もしダウンコートを着てしまったら「春っぽくない」「TPO のわからない人」と思われるかもしれないなど、社会の中でどのように見られるかを気にするからではないでしょうか。「おにいちゃんだから」という発言は、「家族」という社会のなかでの「兄」という地位に基づいて求められる役割があるから出てくるものでしょう。このゼミでは、その事象における「社会」とは何かを考察すること、社会のなかで起きているさまざまなことがらの因果関係を＜社会学的に＞考察することを通して、よりよい社会を構築するためにはどのような社会の仕組みが必要かを考えていきたいと思えます。

【内容】

社会の中のさまざまなことがらを＜社会学的に＞考えるために必要な社会学の知識、社会学の方法論（理論研究・社会調査）について学びます。単なる自己主張ではなく、理論やデータに基づいた考察ができるよう学習していきます。

卒業論文は＜社会学的考察＞ができれば、テーマはどのようなものでも構いません。難しいことでも身近な経験から「なぜだろう？」と思ったことからスタートしてみましょう。たとえば、最近私はスキューバダイビングを始めましたが、沖縄ではダイビングショップがありすぎてどこでショップでお願いするか迷いましたが、本州最北端の青森ではダイビングショップがなさすぎて困りました。なんとかショップを見つけてお願いできましたが、青森は北も東も西も海に面しているのになぜショップが少ないのかをインストラクターの方に尋ねてみたら、青森では漁協が強いので、ダイビングができる場所が限られているとのことでした。海はつながっているのに、沖縄県にとっての「海」と青森県にとっての「海」はまったく違うものと認識されていることがわかります。ではそれはなぜなのか？を社会学的に考えてみるのもおもしろいでしょう。身近なことがらを、＜社会学的に＞考察してみませんか。

【方法】

2年生：「社会学的に考える」ために、社会学の基礎文献を読みます。毎回担当を決め、レジュメの作成・報告を行ってもらいます。また、社会調査を実施するために必要な調査方法論についても学びます。

3年生：4年生で作成する卒業論文を作成する準備をします。より実践的な社会学の文献購読と、卒論のテーマと方法を決めるために各自の研究発表を行います。グループワークも実施する予定です。

4年生：卒業論文の作成に向けて、各自の進捗状況を発表してもらいます。

使用テキスト	担当教員からのメッセージ
授業内で指示します	<p>社会学の基本は「考える」ことです。考えること、議論することに積極的な学生を希望します。毎回のゼミで必ず全員に発言してもらいます。</p> <p>本ゼミを希望する学生は、新城担当の「社会学」、および社会調査士関連科目（A～G）をできる限り受講してください。</p> <p>＜社会学的に考える＞ことに向いていない人もいますので、合同説明会・個別説明会のどちらかに必ず参加してください。</p>

